

令和7年度 学校評価 報告書

報告日
令和8年3月12日

幼稚園名	芦屋市立小槌幼稚園
園長名	池田 睦美

1 今年度の重点目標

- 1 心も体もたくましい幼児を育むための教育の推進
- 2 幼稚園や地域の特性を生かした保育内容の実施
- 3 子育て支援の充実

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・教育評価に関する保護者アンケートを実施、集約し、保護者に周知した。
- ・重点目標に対しての取り組みは適切になされている。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策
1	教育過程	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育目標である「心も体もたくましい幼児の育成」に向けて、大阪総合保育大学の講師の先生をお招きし、市内公開園内研究会を行った。園の研究テーマでもある幼児が心わくわくし、幼児がつながり合うための教師の援助について研究を深めた。幼児の内面を細やかに読み取り、心わくわく、やってみたいと思うことが学びの芽になること、幼児が主体的に遊ぶために教師はどのような立ち位置でどのように援助をしていくかを常に考え援助をしていくことの大切さを学んだ。 ・同志社大学の先生を講師にお招きし、年間8回、運動遊び(巧技台、鬼ごっこ)に取り組んだ。個々の運動機能が育まれたことはもちろんであるが、友達同士思いを出し合いながら共に遊ぶ楽しさを味わうことにつながった。 ・園の畑で野菜を育て収穫をする喜びや収穫物をみんなでいただき、食育の推進に努めた。 ・園が中心となり地域の就学前施設と、年間を通し交流を深めた。互いの教育を知り教師の資質能力を高め合う機会となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、一人一人の幼児の内面を細やかに読み取り、幼児理解に努める。幼児がやってみたいと思う学びの芽を育み、友達とつながり合いながら成長できるように環境作りや教師の援助を探り、継続して研究を深めていく。 ・園内研究会を通して、講師の先生からの指導を職員で共有し、教師の資質を高めることで、幼児の育ちにつながるように努めていく。 ・地域の就学前施設との交流では、幼児期の育ちを小学校へと接続できるように、園が中心となり進めていく。
2	子育て支援	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のブログや園だより、写真の掲示等を通して、幼稚園教育の内容の発信に努めた。 ・保護者会では、参観日での子どもの様子から、「こころわくわくシート」を用いて、成長や育ちつつある姿を保護者同士が共有する場を設け、子育て支援に努めた。 ・週1回の園庭解放では、未就園児が園で遊び、保護者同士や園とのつながりがもてるように努めた。子育てひろばと日を重ねて、英語で遊ぼうを催したり、さんさんひろば、にこにこひろばや小槌祭りでは、園児と一緒に触れ合って遊ぶ楽しさが感じられるような機会を設けたりした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、幼稚園教育を分かりやすく発信する工夫をし、園と家庭とが連携がとれるように努めていく。 ・地域の未就園児とその保護者が幼稚園を身近に感じ、親しみが持てるように、園の行事と重ね、参加を呼び掛け、子育てが楽しめるように、発信をしていく。

4 評価項目に係る学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・2月に実施した「教育評価アンケート」でも園の教育活動への高い評価を得ており、保護者の幼稚園への信頼が伺える。 ・子どもが幼稚園に通うことを喜んでいてという問いでは「そう思う」に100%の評価されていることが素晴らしい。小学校、中学校へもつなげていくことが大切である。 ・一年を通して、子どもが成長していることがよく見える。今後も、園が中心となり、近隣の就学前の施設との交流や小学校への学びの接続をしながら幼稚園教育をよさを大切にしていってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、保護者と連携をとりながら子育ての楽しさを発信し、共有できるような場づくりに努めてほしい。 ・引き続き、地域に開かれた幼稚園として、他の就学前施設と連携したり未就園児も園の行事に参加できたりするような保育を行い、特色ある園づくりを進めてほしい。

5 総合的な学校関係者評価

- ・保護者の教育評価は具体的に丁寧を実施されており、園における教育活動の取り組みは良好である。今後も、家庭や地域との連携を大切にし、園の特徴を活かしながら、教育活動や内容を考え、工夫していくことを期待する。